

交野おりひめ大学通信

一人じゃ出来ないことを、10人で、50人で、100人で！

令和5年2月号

2023年、恒例のとんどで一年の無病息災を願う。

今年も小正月に合わせ、向井田の酒米田で恒例のとんどを行ないました。これは例年行なっている行事で、市内でも各所で行なわれていますが、最近では街中で火を燃やすことや煙の影響などから、年々その数は減少傾向に。交野おりひめ大学酒づくりの会では、そんな地域に根付いた行事を大切にしたいという思いを込め、今年もとんどを実施しました。

朝から骨組みとなる竹を会員たち皆で切り出し、酒米田の真ん中にやぐら状に組上げます。昨年の酒米のワラをやぐらの周りに括りつけ、今年の正月飾りやお札を入れれば、準備万端出来上り！日本酒でやぐらの周りを清め、長老の発声のもと、酒米の豊作と会員の健康を皆で祈念し、いよいよ点火！燃えだせばあつという間に火は広がり、ある程度燃えたところで、今年の恵方の「南南東のやや南」に倒されました。その後は、たき火を囲んで、持ち寄った餅や焼きいもを楽しみながら、しばし談笑。楽しいひと時を過ごしました。酒米の収量や、それで作る日本酒の味わいなどなどを語り散会。

今年の酒米づくりは、2月中旬頃から田んぼのメンテナンスを開始する予定です。さあ、今年は、どんなお酒が出来るのでしょうか？今年も、美味しいお酒が出来ますように。

【おりひめ大学にこの人あり】おさけ学科・酒づくりの会上野譲さん(69)京田辺市在住

しばらくお休みをいただいていたこのコーナー、再開します！

今回は、京都府京田辺市から、おりひめ大学に参加されている上野さんをご紹介します。

小柄な上野さんですが、毎回の参加はほとんど自転車で！愛車のMTBを駆って、京田辺市から参加されています。「健康のために自転車愛用しています。でも、夏の草刈りの帰りは、さすがにキツかった！」さうと、話されていますが、いやいやお元気です。

もともと金融関係の仕事をしていましたが、定年後は某大学のキャリアセンターで経験を活かし学生の指導に当たられていました。そこで、羽石前学長にお酒好きを見込まれ声をかけられたのが、おりひめ大学参加のきっかけだったとか。

退職後は自然に触れたくて、自宅の庭で家庭菜園を楽しんでおられました。自然のなかでやる酒米づくりに魅力を感じ、酒づくりの会に参加されたそうです。

「田んぼの作業は楽しいですね。なかでも、メンバーの持つスキルに驚きました。」会員それぞれが持つノウハウを活かし

活動している様に、感銘を受けたとか。

最近では、地元京田辺市の「きょうたな環境パートナーシップ」にも加わり、京田辺市での自然保護活動にも積極的に関わられているとか。

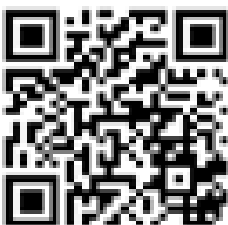
「自然に身を置くのが、気持ちいいんです。そういった活動をすることで、いろいろな気づかされることも多く楽しいです。刺激も多いです。」

退職後はどうしても人付き合いが減りますが、働けるうちは働いて、人と触れ合うことで得られる刺激が、健康に過ごせる秘訣かと思っています。健康でこそ、美味しいお酒が飲めますしね。(笑)「お酒と言えば、昨年醸した「百天満天生酛」のまったりと深みのある味が最近のお気に入りだとか。ぬる燗でやるのが最高！らしいです。」

今後は、放置竹林を市民の力を活かして、なんとかすることが出来ないか挑戦したいそうです。竹チップの活用やメンテナンスにもチャレンジしたいとか。

上野さんのチャレンジ、ぜひ応援したいですね！これからもお元気で、がんばってください！

交野おりひめ大学
では、2023年度
生を募集中
申込は、ホーム
ページから



→ 燃え上がる竹のやぐら

→ パワフルな上野さん！